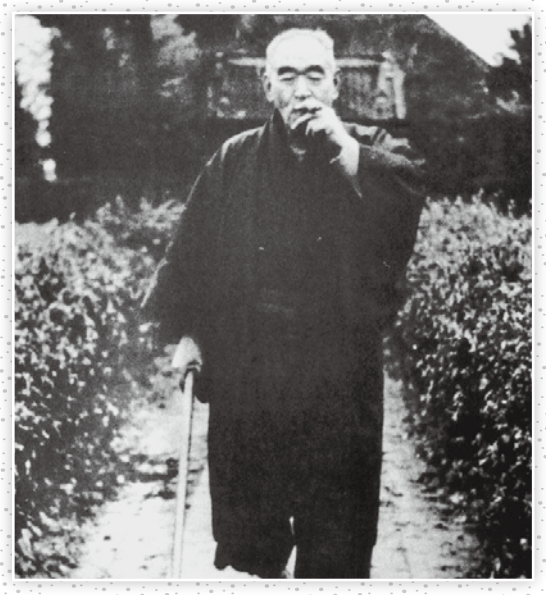
歴史のある風景

関宿と酪農

～鈴木貫太郎翁とタカ夫人が遺したもの～

昭和10年代まで、当時の関宿町における産業といえば、水稲と養蚕（カイコ）が中心でしたが、昭和14（1939）年の秋、町は9頭の乳牛を静岡県の三島地方からまとめて購入し、農家に分配しました。農家が自分のところで搾乳をするようになったのはこのころからで、当時は、まだ頭数も少なく、野草や稲わらをエサとして与えていました。

終戦後、内閣総理大臣を辞した鈴木貫太郎翁は、幼いころを過ごした関宿に戻ってきます。天気の良い日には、タカ夫人と散歩をしながら、近隣の農家と話しをするのが日課のようになりました。翁は、利根川の堤防に注目し、これを利用できないものかと考えていたのです。



酪農を奨励した鈴木貫太郎

昭和22（1947）年の秋、地元の青年24人により農事研究会が立ち上がると、翁は知人や親せき